

ツツドリ



2005年5月20日。前日まで寒くてぐずぐずした天候でしたが、この日は気温18°C。久しぶりの快晴でした。当別「フクロウの森」で3回目の札幌工科専門学校の春期林業演習が行なわれました。学生は毎年1学年が入れ替わりますので、2年制の学校では概ね半数が新顔となります。カリキュラムは最低限度の林業実技を習得すべく組んであるわけです。3回とも見てきた立場からはマンネリに思えても、初めて実習を受ける側の立場で考えてみますと、すべてが新鮮で、エキサイティングにちがいないと思ったことでした。

林内のエゾヤマザクラが満開でした。5月20日にもなって満開は記録的な遅さなのです。前年のこの行事は5月18日でした。山菜の収穫をよこびましたが、今年はフキが良いものでやっと30％程度に伸びているにすぎない遅い春でした。

ボ-ボ。ボ-ボ。と、響く声で二声ずつ数回繰り返すツツドリの声が近くに聞こえました。おっとりカメラで接近しましてキャッチした映像であります。ツツドリはホトトギス科の鳥で、托卵繁殖をします。ホトトギス、カッコウ、ジュウイチが親戚の仲です。ベテランのバーダーでも見た目だけでは殆ど区別出来ないでしょう。大小のいささかの違いがありますが、シルエットや装いはほぼ同じなのです。ところが、鳴いてくれれば明確に区別出来ます。この連中は何かの都合で同じ姿、形をしているのでしょう

が、種族の厳然たる区別を泣き声でしているわけです。声だけでこれほどはっきり区別できる同じ科の鳥も珍しいのであります。

やけに鳴き続けると感じてはいました。2羽いることも声の聞こえる方向で分かっていました。もつれあうように追飛する影を確認して納得しました。縄張り争いの真っ只中にいたわけでした。お陰様でカメラをかざして接近をする私よりライバルの方を気にしているので撮れた映像なのであります。

カッコウの声が珍しくなって久しくなりました。40年前は札幌市内でcommonな鳥でしたが、今は珍種となりました。その40年前でもツツドリは深山の鳥でした。そのツツドリが札幌郊外とはいえ当別町の里山ともいべき「フクロウの森」で出会ったことを記録する意味でこの一文を残しておきます。